

海外安全対策情報（ポルトガル・2024年1月～3月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2023年の犯罪認知件数

2023年の犯罪認知件数は371,995件(+28,150件)で、前年比8.2%増となりました。この認知件数は過去10年間で最多であり、2013年と同水準です。

凶悪犯罪の認知件数は14,022件で、前年より5.5%増え、2019年以降で最多となっています。

件数が多い犯罪は、家庭内暴力事件の26,041件で、前年より32件減少しました。飲酒運転は24,133件で、前年比2,062件増加、暴行は24,111件で、前年比2,444件増加しています。

増加率が大きい罪種は、「その他の詐欺」で、資金洗浄などがこれに該当します。また、車上狙い(20,180件)、インターネット詐欺(20,259件)、無免許運転(15,579件)、脅迫・強要(16,676件)、置引き(11,234件)も目立っています。

財産に対する罪が189,657件で、全体の51%を占めています。次いで、生命・身体に対する罪が90,840件で24.4%、社会的法益に対する罪が44,439件で11.9%を占めています。国家に対する罪は7,713件で、前年比で16.9%増加しました。

イ 青少年犯罪の増加

2023年に認知された青少年犯罪は18,406件で、前年より8.2%増加しました。

集団犯罪は6,757件で、前年比14.8%増加しました。

2021年以降、青少年犯罪やグループ犯罪が増加してことを受け、専門家チームが発足し、様々な角度から分析が行われました。その報告書では

- ・ 2019年、2022年及び2023年と認知件数は増加しているものの、2015年までと比較すると、減少傾向にある。
- ・ 凶悪犯罪についても、2022年に占める殺人・殺人未遂の割合は18%だったが、2023年は6%まで減少している。

と分析されています。

ウ 詐欺事件の増加

共和国警備庁(GNR)が2023年に認知した詐欺事件は、前年比20%(+3,579件)増の21,548件でした。

県別では、ポルトが最多の3,192件(+11%)で、セトゥーバルの2,653件(+25%)、リスボンの2,527件(+27.5%)、ファロの2,166件(426件)と続きます。

罪種別では、インターネット詐欺が最も多く、7,303件(+12%)でした。

エ 2024年の犯罪発生状況

治安警察庁(PSP)は、今年既に260件の「オレオレ詐欺」の被害届を受理しました。手口は、親族を騙り、WhatsApp送金を依頼するメッセージをおくるものです。2019年から2023年までに、48,292件の被害が発生し、延べ1,760名の被疑者が特定され、うち55名が逮捕されています。被害者の大半は、高齢者です。

オ リスボン市内における薬物密売事犯の増加

かつて「薬物のスーパー・マーケット」と呼ばれたリスボン市アルカンタラ地区の“Vale de Alcantara”で、再び、路上における薬物売買や中毒者による薬物使用が目立つようになってきました。同地区を所管するカンポ・デ・オウリケ区長とアルカンタラ区長が、内務大臣及び薬物中毒監視局長等に対策を求めているほか、リスボン市役所に対しても問題解決を要請していますが、同市役所では政府が対処すべき問題と説明しています。

カ テロに対する脅威度

2023年10月7日のハマスによるイスラエルへの攻撃を受け、ポルトガルでは同月19日以降、テロの脅威度を“significativo”（5段階中のレベル3）に維持しています。

ピニェイロ国内治安機構（SSI）長官は、「状況に変化はなく、現行の脅威度を維持する。ポルトガルにおけるイスラエルーハマスの対立の影響については、関係機関が注視している。」と語りました。

また、脅威度の引上げに伴い、リスボン市内のイスラエル大使館、リスボン市及びポルト市のユダヤ教関連施設の警戒が強化されています。警戒警備に関し、PSPは「現在のところ、現行の警備体制を維持している。」と述べました。

(2) 邦人被害

2024年1月から3月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は2件で、いずれも窃盗の被害でした。

リスボン市内及びシントラ市内を観光中、背中に背負ったバックパック内から旅券や財布を盗まれる被害です。

路上や観光スポットはもちろん、高級ホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際、食事を摂る際等、バッグは常に視界に入る場所に持ち、被害に遭わないよう気をつけましょう。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 強盗殺人

1月16日8時過ぎ、セイシャル市アモーラ地区の路上において、近所に住む通勤途中の76歳の女性が20歳代の男に鞆を奪われそうになったため、女性が抵抗したところ、男は持っていた刃物で女性の胸など5か所を刺し、鞆を奪って逃走した。女性は病院に救急車で搬送される途中で死亡した。

(2) 強盗

- 1月20日未明、ギマランイス市内にある一般住宅に3人組が押し入り、70歳男性の手足を縛り、現金などを奪って逃走した。
- 1月25日20時半過ぎ、ブラガ市内にある一般住宅の塀を越え、無施錠の勝手口から複数人の男が侵入、70歳男性とその妻を刃物やバールで脅し、金品を奪って逃走した。

- 2月14日1時半過ぎ、オエイラス市パツソ・デ・アルコス地区の海岸線の遊歩道において、30歳の男性が3人組に拳銃で脅され、MBWAYを使って80ユーロを送金させられた。
- 2月16日、ファロ市内を運行する路線バスの車内において、31歳の外国籍の男が注射器で乗客を脅し、金品を奪おうとしたが、運転手が犯行に気づき、PSPへの通報システムを作動させた。男は逃走したが、駆け付けたPSP警察官により、現場近くで身柄を拘束された。
- 3月5日19時55分過ぎ、リスボン市内ラト広場の交差点において、乗用車で信号待ちをしていた男性が、大型バイクに乗った男に拳銃で脅され、3万ユーロ相当の高級腕時計を奪われた。バイクは、そのまま逃走した。
- 4月2日、リスボン市内セッテ・リオス駅において、少年7人のグループが鎌やナイフを振り回して乗客を脅し、携帯電話や財布などを奪った。通報を受け駆け付けたPSP警察官が、17歳から19歳までの少年6人を逮捕した。

(3) 窃盗

- 1月16日、コヴィリャン市内の一般住宅に隣人の知り合いを騙るた40歳代のポルトガル人とみられる女2人組が現れ、家人の隙を見て、寝室にあった現金や貴金属を盗んだ。同市内では同様の手口で2件の窃盗事件が発生している。
- ここ数か月間に、アブランテス市内南部地域において、農業施設に設置された電気設備が破壊されて電線が盗まれる事件が70件以上発生しており、その被害額は100万ユーロ超に上る。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。